

修正したシナリオの内容について

なごや循環型社会・しみん提案会議

シナリオの基本的な考え

市民会議では、次に示す4つのシナリオのうち、「市民・事業者の役割を増やすことで、ごみ+資源の総量を減らす！」ことを基本の考えとするシナリオAを選択しました。

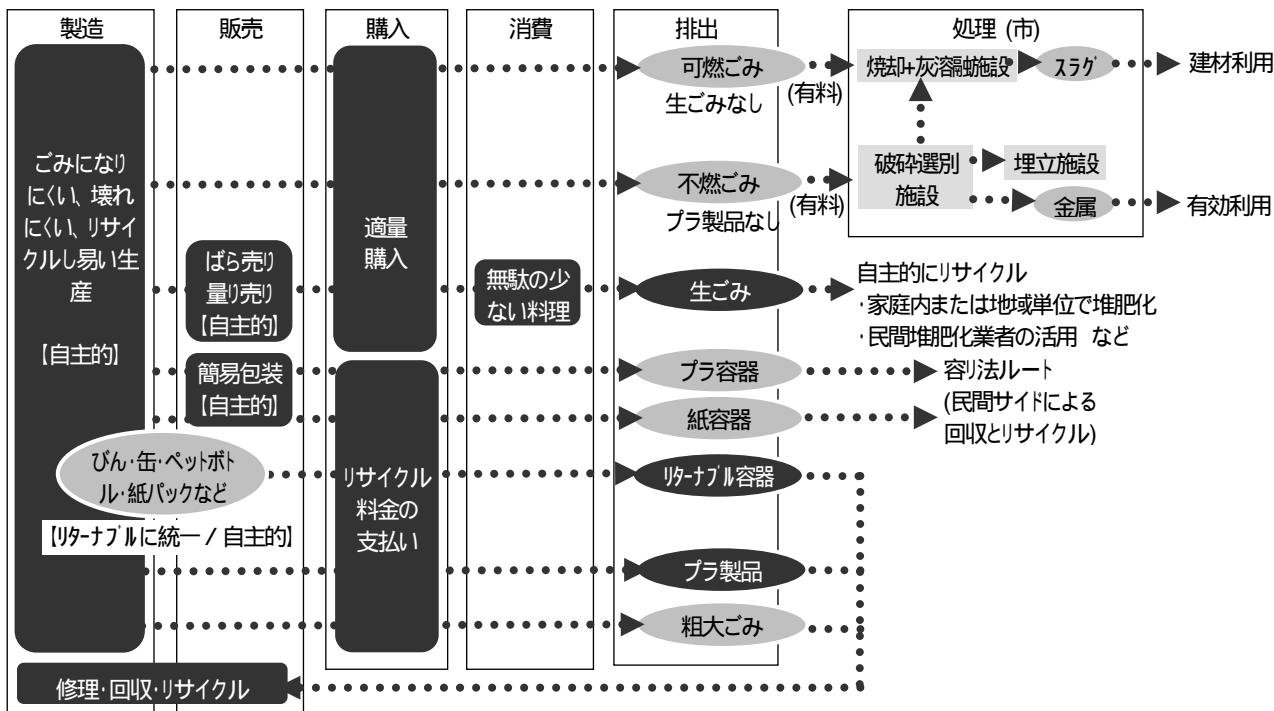
	行政の役割大	市民・事業者の役割大
ごみ+資源の総量を減らす！ (発生抑制とリサイクル)	シナリオB 行政による積極的な3R施策を 市民・事業者が理解し協力することで ごみ+資源の総量を減らす！	シナリオA なごやを構成する全ての“しみん”による 3R施策への積極的な参画と実践により ごみ+資源の総量を減らす！
ごみの量を減らす！ (リサイクル)	シナリオC 行政による積極的なリサイクル施策と 全ての排出者(市民・事業者)の分別徹底 によりごみの量を減らす！	シナリオD なごやを構成する全ての“しみん”による リサイクル施策への積極的な参画と実践 によりごみの量を減らす！

なお、シナリオの名称である、

『なごやを構成する全ての“しみん”による3R施策への積極的な参画と実践によりごみ+資源の総量を減らす！』

は、次回の合同会議（ステークホルダー会議と合同開催）にて、その改善を検討します。

ごみ・資源の流れ



既に、市民サイドにより自主的に展開されている古紙・古着類の回収は継続

主なごみ・資源品目でみるシナリオの特徴

市民、地域、行政の役割を検討していく場を設けます。また、具体化にあたっては、より深い検討を行っていきます。

(1) 生ごみ



まず、生ごみそのものを減らす

- 適量販売・購入にむけ、販売店と消費者の協定など自主的な取り組みを行っていきます。

生ごみの自主的なリサイクルを展開

- 生ごみ処理機の活用、地域単位での堆肥化、民間資源化業者の活用、全市的な分別収集などのリサイクルについて、すべてのしみんで選択し、取り組みを進めていきます。



家のベランダで



公園・街路で(地域単位)



農地へ(堆肥化業者経由)



全市的に展開(メタン発酵など)

(2) レジ袋



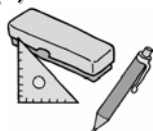
まず、レジ袋そのものを減らす

- レジ袋削減にむけ、販売店と消費者の協定～レジ袋使用自粛や有料販売～など自主的な取り組みを行っていきます。

不要となった場合は、プラスチック容器包装としての分別を徹底し、民間ルートでリサイクル

- 「プラスチック容器包装」として分別収集・リサイクルを行います。

(3) プラスチック類 (容器包装以外)



まず、廃プラスチック類そのものを減らす

- 事業者による“環境に配慮した生産・販売”、消費者による左記製品の積極購入を自主的に展開していきます。

不要となった場合は、民間ルートでリサイクル

- “廃プラスチック類となった段階”では、生産・販売サイドが主導となって、回収とリサイクルを行います。

(4) 飲料容器



飲料容器をリターナブル化(民間主導で推進)

- 生産者、販売店と消費者の協定などにより、“リターナブル容器の利用推進”を図ります。

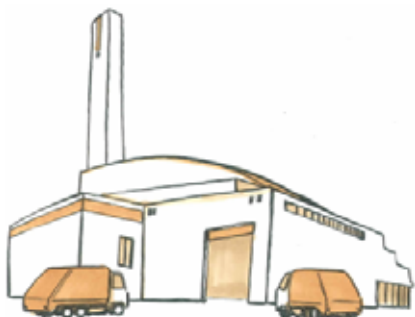
不要となった場合は、民間ルートでリサイクル

- 生産・販売サイドが主導となって、回収とリユースを行います。

民間ルートでのリサイクルは、回収・リユース・リサイクルの費用を、商品価格に上乗せして販売します。

行政は、上記の自主的な取り組みをより一層促すために、必要に応じ、共通のルールや義務付けなど定めたり、各種のリサイクル事業が環境基準を満たすようチェックしたりします。

焼却処理のあり方



まず、可燃ごみそのものを減らす

- 事業様式、生活習慣、ライフスタイルの見直し、ごみそのものが減らすことに努めます。

埋立量最少化のため“焼却+灰溶融”を基本とする

- 埋立量最少化のため、焼却処理後の灰は溶融することで、さらなる減容を図ります。(焼却+灰溶融を基本とします。)

費用負担のあり方



ごみ・資源ともに排出者が負担

- ごみは有料とします。
(指定袋の価格に、処理費用の一部を上乗せ)
- 資源は商品の購入時に負担します。
(商品価格に、回収やリユース・リサイクルの費用を上乗せして販売します。)

さらに、
・有料化の必要性
・具体的な制度設計
などの検討が必要です。

教育・人材育成・しみん協働



発生抑制のための人材育成

- 市民・事業者等の協働で、発生抑制(生活様式や価値観の見直し)を自主的に取り組める人材の育成していきます。

「しみん」主体の地域協働

- 市民・事業者・行政等の協力体制で地域での取組を展開していきます。

しみん主導のシナリオにおいても、行政の役割は重要です。
この部分も明確に示します。

・行政としての将来ビジョン ・廃棄物処理施設の整備 ・国への提言 など

確定シナリオにおける基本指標

	市全体(年間)	市民1人当り(年間)	市民1人当り(一日)
ごみ量	464,000 t	210kg	575g
資源量	536,000 t	244kg	668g
リサイクル率	54 %		
埋立量	22,000 t	10kg	27g
CO ₂ 排出量	11.4 ~ 15.0 万tCO ₂	52 ~ 68kg CO ₂	142 ~ 186g CO ₂
必要経費	205 ~ 240 億円	4,780 ~ 5,200 円 (市民負担額)	13 ~ 14 円 (市民負担額)

市民負担額は、おおよその目安を示すものであり、一人一人のライフスタイルによりその金額は増減します。